

# 若者の仕事観・職業観について ～教職課程選択3年次生の意識調査より～

西村 宗一郎

北里大学海洋生命科学部

## 1. はじめに

本調査は、本学教職課程選択者の「教育相談・進路指導論」を受講している理学部・海洋生命科学部の3年次生を対象に6年間にわたる仕事観・職業観の調査結果をまとめたものである。

過去には、2012年に内閣府が15歳から29歳までの男女各1,500名を対象としたWeb調査を詳細にまとめ分析したものがある<sup>3,4</sup>。また、日本財団でも成人年齢の法改正に伴い18歳を対象とした調査を行い公表している第4回の調査結果も参考にした<sup>6</sup>。また、毎年のように公表されている新入社員や上司の当該年の意識調査の結果も参考にした。

仕事観・職業観に関する以下の調査をした。

- 1 あこがれ遍歴調査（現在に至るまでの好きだったことあこがれていた職業の調査）
- 2 卒業後の進路、または、働くことの意義
- 3 人生計画表の作成
- 4 労働観・仕事観に関するアンケート（2022年度のみ）（表中の数値は全て（%））

## 2. あこがれ遍歴調査

年度ごとの変化は大きな差はみられなかった。男女では少し異なる傾向がみられた。

### ① 好きだったことについて

- ・乳児期を除き各年齢ともに80%強の学生があるとしている。
- ・乳幼児期から小学校前期までは男女とも好きなことはアニメやアニメの主人公が1位である。男子は電車、車や運転手・車掌を挙げている。女子はゲームを挙げている。小学校中期後期はゲームが1位で、以降の期では2,3位で好きな傾向が続く。
- ・小学校中期以降では、男子はスポーツ（球技が多い）をすることや観戦の1位が続く。

動物好き、釣りなどの趣味も2,3位以内であり、中学以降ではゲームも3位以内になっている。教えることや教科(理系)も3位以内になっている。

- ・女子は中高では、スポーツが1位で、大学では映画鑑賞・音楽鑑賞が1位である。男子と同様に動物好きの傾向がみられる。声優や女優・アイドルを好きに挙げている。
- ・男女ともに年齢が上がるに従い、好きだったことは多彩になる。スポーツなどは、好きだったとして挙げた競技種目ではなく、スポーツとしてまとめた。

② あこがれた職業について

- ・乳幼児期…男子は、アニメやテレビの主人公にあこがれている。次いで、鉄道やバスなどの乗り物関係の仕事を挙げている。

女子は、ケーキ屋さん、パン屋さんなどのお店屋さんを挙げている。(小学校前期も)次いで、保育士や幼稚園の先生や親を挙げている。

この時期は、好きだったことと職業が一致しているか。女子の場合は、身近な人に影響されてあこがれている。

- ・小学校期…男女とも、運動しているスポーツや選手にあこがれてスポーツ選手が多い。小学校後期になると教員が増えてくるが、女子の場合は、幼稚園教員、小学校教員と具体的である。

男子では、学者・研究職を挙げているが、学者は昆虫博士など身近な興味のあることで、研究者としての学者ではない。

女子では、医者、獣医、看護師など医療関係の職業を挙げている。また、ピアノなどの習い事から演奏家も多い。

- ・中学校以降…男女とも、教職選択者での調査であるので教員を一番多く挙げている。研究職が次いで多い。

男子は、大工など職人や、公務員、女子は会社員を高校・大学で挙げている。女子では、医療関係の職も多くみられ、少数だが高収入の職を挙げていることが、男子にはない特徴である。

③ あこがれ遍歴の調査から見てきたもの

・現時点でのあこがれ職業選択において、好きだったことから選択している学生は、全体の3割弱(全体28%、男子31%、女子23%)という結果である。

・乳幼児期を除いた領域において、職業あこがれたきっかけは、記載なしが一番多いが、次に、身近な人の影響を受けた場合である。親の職業や忠告、担任、教科担当教員や部活の指導者などである。

・13～14歳、19～現在で、あこがれている職業を挙げているものが他の領域より少ないが、今後分析する必要がある。この時期の職業選択としては、会社員・公務員等安定した収入が得られるものを選択している。(表1イタリック数値)

表1 好きだったこととあこがれた職業を挙げた学生

年齢	好きだったこと			あこがれの職業		
	全体	男	女	全体	男	女
0歳～3歳	68.7	73.6	60.0	33.7	35.8	30.0
4～6	88.0	92.5	80.0	78.3	81.1	73.3
7～8	88.0	88.7	86.7	74.7	75.5	73.3
9～10	89.2	90.6	86.7	80.7	83.0	76.7
11～12	88.0	90.6	83.3	84.3	86.8	80.0
13～14	90.4	92.5	86.7	75.9	77.4	73.3
15～18	89.2	94.3	80.0	86.7	83.0	93.3
19～現在	85.5	86.8	83.3	78.3	81.1	73.3

### 3. 卒業後の進路、または、働くことの意義

「卒業後の進路」については、一連の調査の前段階として学生の意識調査である。多くの学生は、将来がまだ定まらないか、漠然としていることがうかがわれる。教員を目指している学生の多くは、はっきりした教員像を持たないものが多い。民間就職を希望している学生は、就活の中から自分に合った就職先を見出そうとしているものが多い。大学院進学を目指しているものは研究対象が明確でないものが多い。これからの1年間で絞っていかうとしている。

「働くことの意義」については、6年前の学生に対する自由記載の調査結果である。

(総数37名)

まずは、生活基盤の確立を目指すことで収入を得るため1位は予想されたが思ったより割合が少なかった。社会のために働く、自己実現を目指すや生き甲斐の発見のために働くと考えている学生は総計で半数を超えていた。

また必須回答ではないが「教員となった場合には、どのように働く意義を教えるか。」に対して

- ・働くことは大前提。やりたい仕事があればよいが多くの場合は、見つからない。その場合は、自分のやりたいことのために働くことを教える。
- ・高収入でもやりたくない仕事につくよりも、社会のためや自己の幸福の追求のために働くことを教える。

等の回答があった。

表2 働くことの意義

順位	項目	割合
1	収入を得て、生活の維持・生活の質を高める	35.1
2	社会貢献	18.9
3	幸福の追求・自己実現・生き方を豊かにするため	16.2
3	生き方、生きがいの発見	16.2
5	社会とかがわるため・社会での役割の発見	2.7
6	家族など守るべきものがある	2.7
7	義務	2.7

#### 4. 人生計画表の作成

人生計画表の作成にありたり大谷翔平選手の人生計画図を参考資料として配布した。その際特に強調したことは、仕事とプライベートの出来事を書き分けて、大学卒業後10年間は出来れば毎年記載することを求めた。

表3-1 20代での仕事観

	全体	男	女
仕事第一	75.9	81.1	66.0
キャリアアップのための資格取得等	8.0	7.8	8.5
趣味との両立	16.0	11.1	25.5

表3-2 仕事と家庭の両立（子育て）

	男	女	備考
育児休暇取得	0.0	100.0	夫に取らせる1名
育児等のための転・退職	0.0	22.0	

表3-3 転職・起業について

	全体	男	女
転職1回	14.6	6.7	29.8
転職複数回	0.7	1.1	
起業	2.9	1.1	6.4
転職後起業	0.7	1.1	

表3-1から見えてくるものは、仕事に慣れること優先で、仕事に余裕ができてからの30代後半から趣味等をプライベートで記す学生が見受けられ、特に、退職後に趣味を持つと答えているものが多かった（趣味の第一位は旅行である）。就職初期から、ワークライフ

バランスを考えておかないと仕事第一の習慣から抜けられない恐れがある。女子の仕事優先度が低いのは、結婚後の家庭生活を考えての趣味との両立(趣味優先?)が考えられる。これは業務内容の男女格差が女子は解消されないことと考えていることが一因か?

表3-2から見てくることは、男子は、子育てをプライベートで優先することを計画表では記しているが育児休業制度を利用する記載はない。女子はほとんど長期の育児休業制度の取得を記しているがパートナーに育児休暇の取得を願っているのは1名のみである。制度の運用において、北欧のような大学生の長期インターンシップ等の導入が望まれる。また、長期の在宅勤務などを制度化するなど、具体的な子育て支援・介護支援策の法制化が必要であると考えられる。

表3-3からは、1か所で最後まで勤め上げるのが美德とされてきた名残?と思われる。尚、大学での研究職としてキャリアアップによる大学の変更や教員の異動は転職としてカウントしていない。転職で男子の1位は、研究職から教員で、次いで公立学校の教員から私立学校の教員である。女子の転職の1位は、正規職員からパートである(子育て等の時間的余裕の取得のためと考えられる)。また、女子の起業は、家族経営で成り立つカフェなど個人商店経営が1位である。

## 5. 労働観・仕事観に関するアンケートについて

### 1 仕事を選ぶ理由

- ・自分の生活のため ・自分の能力を伸ばすため ・自分の夢や希望を叶えるため
- ・自分の居場所を確保するため ・収入を得るため ・家族の生活のため
- ・結婚をするため ・社会的な地位を得るため ・多くの人の役に立つため
- ・仕事を通して達成感や生きがいを得るため ・働くのがあたりまえだから
- ・なんとなく、特に意味はない ・その他(理由を書いてください)

上記から3つ選択

表4-1 仕事を選ぶ理由

	男		女	
1	収入を得るため	88.6	自分の生活のため	81.3
2	自分の生活のため	74.3	収入を得るため	56.3
3	自分の夢や希望を叶えるため	31.4	家族の生活のため	50.0

生活費の捻出のために働くことが上位であるが、男子では3位に「自分の夢や希望を叶えるため」という仕事を通しての自己実現を目指すことが入っている。

また、「多くの人の役に立つため」・「仕事を通して達成感や生きがいを得るため」という社会貢献や自己有用感については、女子は同率で4位の37%であるが、男子はそれぞれ

れ7位と5位であり若干低率である。

## 2 仕事の形態について

- ・正規・常勤      ・非正規・非常勤      ・自営業・自由業
  - ・専業主婦（主夫）・家事手伝い      ・仕事はしない      ・その他（具体的なものがあれば）
- 上記から1つ選択

予想されといえ「正規・常勤」が男女とも1位（男子94.3% 女子81.3%）次いで「非正規・非常勤」で、女子は3位に「自営業・自由業」でこれはカフェや花屋等の経営と思われる。

## 3 あなたが理想とする将来像

- ・起業して会社経営者となる      ・趣味の店（ペンション、農園等を含む）
- ・就職して会社の社長になる、教師になり校長になる、または、大学院を出て大学教授・研究所の所長になる
- ・歴史的な研究成果を上げる      ・一生食べていけるような安定した仕事を持つ
- ・自分の好きな仕事を一生続ける
- ・好きな人と結婚して子供ができて幸せな家庭生活を送る。
- ・大金持ちと結婚して裕福に暮らす      ・宝くじを当てて遊んで暮らす
- ・自由気ままに世界中を旅してまわる      ・大自然の中で自給自足の生活をする
- ・家で好き勝手に暮らす      ・特になし

上記から1つ選択

表4.2 理想とする将来像

	男		女	
1	一生食べていけるような安定した仕事を持つ	34.3	好きな人と結婚して子供ができて幸せな家庭生活を送る	43.8
2	好きな人と結婚して子供ができて幸せな家庭生活を送る	31.4	自分の好きな仕事を一生続ける	25.0
3	自分の好きな仕事を一生続ける	28.6	家で好き勝手に暮らす	25.0

幸せな家庭生活の構築が上位にあり、特に、女子の半数近く理想としている。男子は、収入の確保が1位である。仕事が生き甲斐であることも男女との2、3位にランクしている。また、女子は専業主婦として「家で好き勝手に暮らす」を1/4が選んでいる。

## 4 あなたの理想とする仕事

- ・はたらく時間が短い      ・失業の心配がない      ・健康を損なう心配がない
- ・高い収入が得られる      ・仲間と楽しく働ける      ・責任者として采配が振るえる

- ・独立して、人に気兼ねなくやれる
- ・専門知識や特技が生かせる
- ・世間からもてはやされる
- ・世の中のためになる

上記から3つ選択

表4-3 理想とする仕事

	男		女	
1	高い収入が得られる	45.7	仲間と楽しく働ける	62.5
2	仲間と楽しく働ける	42.9	高い収入が得られる	56.3
3	失業の心配がない	31.4	失業の心配がない	31.3
			専門知識や特技が生かせる	31.3

安定的な仕事を望んでいるものが上位である。女子の特徴は、仕事は職場の雰囲気が大切であることを2/3近くのもので望んでいる。また、「専門知識や特技が生かせる」ことを3割が望んでいるのは、職場での男女の正当な評価を望んでいるものと思われる。

## 6. 最後に

学生の仕事観・労働観から見えてくるものは、「男女共同参画社会の実現」「労働市場の女子労働力の活性化」「フランスでの少子化対策」等を理解しているとしても、生育環境に引きずられていることがうかがい知れた(家庭経営は女子ということが日本人のなかに刷り込まれているのか)。また、先日、2021年度の自治体の男子公務員の育児休暇取得率は19%で、国家公務員の34%比べて低いことが発表された。また、その中で男子公務員の育児休暇取得期間は1カ月未満が54%で一番多く、女子の36%が1年～2年未満の取得が1位であることの落差が顕著である。男子学生の中で、パートナーと生涯賃金などを比較して子育て・介護などで「主夫」となる計画をしている者はいなかった。

転職を考えている学生も全体では2割もいなかったことも問題である。このことは、現在の日本の硬直化した労働市場の現状を反映しているものと考えられる。転職が会社ごとの給与やキャリアなどで決まっていることで選択肢が少なく転職しにくいことが、学生にもわかっているのではと思われる。欧米のように転職市場の育成成熟が望まれる。

### 参考文献・引用文献

1. 文部科学省（2011年5月）「中学校キャリア教育の手引き」
2. 文部科学省（2011年11月）「高等学校キャリア教育の手引き」
3. 内閣府 子ども若者・子育て施策総合推進室(2012年3月)「若者の考え方についての調査」
4. 内閣府（2012年6月）「子ども・若者白書 特集 若者の仕事観や将来像と職業的自立，就労等支援の現状と課題」
5. スポーツニッポン新聞社（2013年2月2日）「花巻東時代（高1）の目標シート大谷翔平選手の人生計画図」
6. 日本財団（2018年11月21日）「18歳意識調査「第4回 - 働く - 」調査報告書」
7. マイナビ キャリアリサーチラボ(2022年4月7日)「Z世代・働き方と仕事の価値観とは？」

## 参考

## あこがれ遍歴

あなたの現在までのあこがれ遍歴 過去を振り返ろう

- ・小さいころからの自分を振り返って今までにどんな職業につきたいと考えてきたでしょうか？
- ・それぞれ、どうしてそうなりたいと思っていたのか？
- ・どんなきっかけからそう思ったのか？

乳児期、幼児期、小学校前・中・後期、中学校、高校、大学等区切りにこだわらず書いて下さい。

年齢	その頃好きだったことは？	あこがれていた職業は？	なんでその職業に憧れていたのか？きっかけは？
0～3			
4～6			
7～8			
9～10			
11～12			
13～14			
15～18			
19～			